

図書館実習報告

工藤 乃ノ佳（文学部文学科文芸・思想専修）

はじめに

私は2023年10月16日から10月27日までの間の10日間、目黒区立八雲中央図書館にて実習をさせていただきました。都内の公共図書館としての使命や特徴、課題とそれに対する対策にはどのようなものがあるのか知りたいと思い八雲中央図書館での実習を希望し、受け入れていただきました。

図書館概要

目黒区立八雲中央図書館は都立大学跡地めぐろ区民キャンパス内に位置し、目黒区内に八館ある公共図書館の中央図書館です。中でもこの館はもっとも新しく2002年に開館しました。目黒区図書館は区内全八館を一館と捉えた運営を行っており、資料は所在館方式を取っています。職員40名は分館には常駐せず八雲中央図書館にのみ所属しており、他に全館あわせて150人ほどの委託社員が務めています。職員は資料係、貸出・予約係、児童サービス係など六係に分かれているのに加え、資料相談カウンターなどは全職員で回す当番制を取っています。

実習で学んだこと

実習では座学を通して目黒区図書館の歴史や基本業務について学び、業務用OPACの情報検索の方法については演習形式で指導していただきました。その後実務として資料相談カウンターに立ち、またお話し会や書架整理などを行ないました。また分館の見学を通して児童サービスや障害者サービスについて理解を深めることができました。

ここでは実習の中で学んだ、目黒区図書館がもつユニークなサービスや区の特徴に合わせた試みについて紹介します。

1. テーマ別の排架－「旅と暮らし」コーナーの設置

八雲中央図書館では、原則日本十進分類法（NDC）に則った排架をしつつ、生活に役立つ分野として007コンピュータや290からガイドブック、490医学・薬学など一部の資料を抜き出して一か所の書架にまとめて排架した「旅と暮らし」コーナーを設置しています。開館当初はその隣にある児童コーナーから直接アクセスできるようにし、親子共に図書館を楽しむことを目指しましたが、開館後にオープンスペースだった児童コーナーの声に関する利用者の意見を受けて壁を設置したことで直接行き来することはできなくなりました。「旅と暮らし」という一つのテーマを設けてコーナーを作ることで資料を探すことの難易度が上がる場面もありますが、資料相談カウンターでのサポートで補っています。

2. 児童サービス－図書館見学などの内容の刷新

目黒区図書館では区内の小中学校との連携を重要視しており、八雲中央図書館は各学校からのアクセスが良い図書館を設けるうえでの空白地帯を埋めるべく設立された一面があります。児童サービスの一環として、八雲中央図書館では毎年区内の小中学生の図書館見学を受け入れています。その内容の決定には学習指導要領を参照しており、これまで防災意識や

キャリア学習といった学校教育の内容の変化を意識して案内の内容を刷新してきました。

3. 分館に拠点を置いた障害者サービス

目黒区図書館では障害者サービスにも力を入れています。目黒本町図書館をサービスの拠点とし、この館で大活字本や点字資料、音声資料を多く所蔵しています。デジタイズ資料は収集している他、自館で作成もしており、音訳者の育成から行っていました。音声資料の作成には、他の団体との重複が無いように考慮するなど他館・他団体との連携も不可欠です。目黒区図書館は図書館資源の利用に障害がある人のバリアを取り除くための努力がなされています。

実習を終えて

目黒区立八雲中央図書館での実習を通して司書課程で学んだ図書館理念や演習内容を現場で実践することで図書館サービスに対する理解が深まりました。八雲中央図書館、また目黒区図書館全体の運営や業務についても詳しく知ることができ、館の特徴と制限とを利活用して区に資する図書館運営に努めていることが分かりました。

今後実習に参加する方への助言として、NDCをはじめとして司書課程で学んだ内容を復習することが必須です。八雲中央図書館では前述のように一部の書架配列がNDC順でないこともあり、NDCや司書課程で学んだ他の知識はやはり必要な場面が多くありました。授業で学んでいた情報検索のやり方なども、実習内での研修や実際の業務を体験させていただくうえでとても役立ちました。また学びたいことをはっきりと持っておくと、実習プログラムの最終的な決定や、さらに踏み込んで教えていただける機会を頂けることもあると思います。

目黒区立八雲中央図書館での実習で得た豊かな経験を今後の図書館に関する学び、またキャリアに生かしていこうと思います。